

公募シンポジウム

[SS-036] 公募シンポジウム36

ビジュアル・ナラティブによる教育と支援

🕒 2018-09-26 09:20 - 11:20 📍 会議棟 / 小会議室7

[企画代表者、話題提供者] やまだ ようこ:1, [話題提供者] いたう たけひこ:2, [話題提供者] 滑田 明暢:3, [話題提供者] 神崎 真実:1, [指定討論者、司会者] 家島 明彦:4
1:立命館大学, 2:和光大学, 3:静岡大学, 4:大阪大学

ナラティブ（物語・語り）とは、経験の組織化や意味づける行為と定義される。狭義には語られたものや語る行為をあらわすが、広義には建築や音楽なども含む。その中でビジュアル・ナラティブとは、イメージ（画像・映像）を伴う視覚的なナラティブをさす。

ビジュアル・ナラティブは、狭義の言語とは異なる特徴をもつ、優れた語り様式と考えられる。ビジュアル・ナラティブは、「表現する」「伝える」「共感する」方法として優れているので、社会実践や教育に生かせる。特にワークショップに適している。ビジュアル・ナラティブは、作品をつくる過程で気づく「リフレクション」プロセスを含み、作品完成のよろこびがあり、できたビジュアル作品を他者と共に見る「三項関係」をつくって語りあうことで多様な視点を得ることができる。ビジュアル・ナラティブを用いた多様な教育・支援方法を開発して提案するとともに、理論的・方法論的な議論を行いたい。

心理学概論における ビジュアル・ナラティブ教材の活用 DIPEXの患者インタビュー動画の有用性

いとうたけひこ（和光大学）

日本心理学会第82回大会
仙台国際センター

公募シンポジウム

[SS-036] 公募シンポジウム36

ビジュアル・ナラティブによる教育と支援

2018-09-26 09:20 - 11:20 会議棟/小会議室7

健康と病いの語りディペックス・ジャパン

<https://www.dipex-j.org/>



認定NPO法人 健康と病いの語り ディペックス・ジャパン
がんや認知症の体験談を動画や音声でお届けしています



会員専用ページ

健康と病いの語り

認知症の語り
dementia

乳がんの語り
breast cancer

前立腺がんの語り
prostate cancer

大腸がん検診の語り
bowel screening

臨床試験・治験の語り
clinical trial

慢性の痛み
chronic pain

健康と病いの語り

—— 健康と病いの語りデータベース・DIPEXとは？

患者ひとり1人の病気体験のデータベース

？
お問い合わせ

イギリスのDIPEX ウェブサイト

The screenshot shows the homepage of healthtalk.org. At the top, there is a navigation bar with categories: Home, People's Experiences, Young People's Experiences, Health Professionals, and Learning & Teaching. Below this is a secondary navigation bar with links for About, The research, News & Blog, Scrapbooks, Donate, Register, and Login. The main header features the healthtalk.org logo, youthhealthtalk.org, and accreditation logos for RCGP and the University of Oxford. A search bar and navigation tabs (A-Z, Categories, Young people) are also present. The main content area includes a 'Home' tab, a 'Health information' section with a video player showing two women, and a navigation bar with buttons for HEALTH INFORMATION, CHIP IN, LEARNING & TEACHING, and YOUNG PEOPLE. A 'Welcome to healthtalk.org' section is visible at the bottom, along with a Twitter feed.

Home People's Experiences Young People's Experiences Health Professionals Learning & Teaching

About The research News & Blog Scrapbooks Donate Register Login

healthtalk.org youthhealthtalk.org RCGP ACCREDITED Health & care information you can trust UNIVERSITY OF OXFORD

A-Z Categories Young people Search

Home

Health information

Information about health condition from the patient perspective.

Related:

- NEW: Alport Syndrome
- NEW: Domestic Violence - women share their experiences
- Browse all of our health topics

Support, encouragement, empathy is best when it comes from someone in the same situation as you.

HEALTH INFORMATION CHIP IN LEARNING & TEACHING YOUNG PEOPLE

Welcome to healthtalk.org

At healthtalk.org you can find information and support for a range of health issues by seeing and hearing people's real life experiences. Thousands of people have shared their experiences on film to help you understand what it's really like to have a health condition such as breast cancer or arthritis. Find out more or select from our list of health

healthtalk.org on Twitter @healthtalkorg

Tweets by @healthtalkorg

healthtalk.org Retweeted

ディペックスを作ったのは 病気を体験した医療者たち

ディペックスが産声をあげたのは、1990年代の英国でした。

膝関節の置換手術をした薬理学者のアンドリュー・ヘルクスハイマーと、乳がんを患った医師のアン・マクファーソンが、ある学会で顔をあわせたことから幕があがります。

二人は、闘病体験を通じて、医療の専門家であるはずなのに病気への理解が十分ではなかったことを痛感していました。《患者には、同じ病気にかかった人の体験を聞く機会が必要だ》と意気投合したのです。

二人は、さまざまな人に相談し、次々に賛同者・協力者を得ていきます。

こうして、患者の語りをインターネットで公開す

日本で最初にディペックスに 魅せられた医師

このニュースを日本に紹介したのが、雑誌『TIP 正しい治療と薬の情報』（以下『TIP』）でした。編集長は、医師の別府宏圀。

別府は、スモン薬害訴訟にかかわったことが縁で1970年代にヘルクスハイマーと知り合い、彼の勧めで1986年に『TIP』を創刊。折に触れ、情報交換をしていたのです。

自らの診療体験や、薬害訴訟を通じて、患者の声にじっくり耳を傾けることを、ことのほか大切に思ってきただけに、公開された英国のサイトを見て、「日本にも『患者の語り』を…」という思いが募りました。

2005年秋、ヘルクスハイマーの80歳の誕生日を祝う会に出席するため渡英した別府は、「ディ

ディペックス・ ジャパンの スタッフ

乳がんの語り

平成19~21年度厚生労働科学研究 がん臨床研究事業
がん患者の意向による治療方法の選択を可能とする支援体制整備を目的
とした、がん体験をめぐる「患者の語り」のデータベース

研究代表者:和田恵美子(大阪府立大学・当時)
乳がんプロジェクト責任者(現):射場典子
前立腺がんプロジェクト責任者(現):澤田明子



和田恵美子



射場典子



澤田明子

認知症の語り

平成21~24年度科学研究費補助金 基盤研究B認知症本人と家族支援
のための「健康・病・介護体験の語り」Webサイトの構築と評価

研究代表者:竹内登美子(富山大学・当時)
プロジェクト責任者(現):後藤恵子



竹内登美子



後藤恵子

大腸がん検診の語り

平成22~25年度厚生労働科学研究第3次対がん10か年総合戦略研究事業
国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構
築とその活用・影響に関する研究

研究代表者:中山健夫(京都大学)
プロジェクト責任者(現):菅野慎子



中山健夫



菅野慎子

臨床試験・治験の語り

平成24~26年度科学研究費補助金
基盤研究(B)
臨床試験参加者の語りデータベース構
築と被験者保護の質向上に関する研究
研究代表者:武藤香織(東京大学)



武藤香織

慢性の痛みの語り

(2018年完成予定)

平成26~29年度科学研究費補助金
基盤研究B
慢性の痛み語りデータベース構築と生
活の再構築に関する研究
研究代表者:佐藤幹代(自治医科大学)



佐藤幹代

クローン病の語り

民間の寄付を財源とする
DiPEX-japan自主事業
プロジェクト責任者:花岡隆夫



花岡隆夫

技術チーム

映像・音声編集:隈本邦彦
ウェブサイト構築:田口里恵



隈本邦彦



田口里恵

事務局

事務局長:佐藤(佐久間)りか
事務局スタッフ:内藤陽子



ウェブサイトの例

認知症の
語り

元気な頃は「おい」「飯」というだけだったが今は必ず笑顔で「ありがとうございます」という。今は「ごめんなさい」を言う練習もして、妻とぶつかって自分も叱られて終わるようにしている



インタビュー内容テキスト

— 病気になってから、その、奥様との関係性というか、何かこう、変わったことっていうのありますか。それまでと違って。

それはもう、元気なときは「おい、持ってこい」、それだけ。それとか、「飯」とかね。今から見れば、えー、それこそ、「あ、そういうことが、あったんだなあ」と、今思い出してる。それで、病気になってからはそんなことは、1回もそういうことはしません。もう必ず「ありがとうございます」。笑顔。大嫌いですけどね、男やから。

— そうなんですか(笑)。

プロフィール

インタビュー本人04

診断時：57歳
インタビュー時：61歳（2010年7月）

[インタビュー介護者05](#)の夫
妻と2人暮らし。2004年頃、新しい職場に配属されストレスから不眠になり、メンタルクリニックを受診、うつ病と診断される。休職後職場復帰するが、仕事に支障が出て大学病院を受診。2006年に若年性アルツハイマー型認知症と診断される。診断6カ月後、36年勤めた市役所を退職。診断3年半後、有料老人ホームで介護の手伝いをするようになる。利用者の喜ぶ顔が励み。これからも何らかの形で人の役に立ちたいと思っている。

[詳しいプロフィールを見る](#)

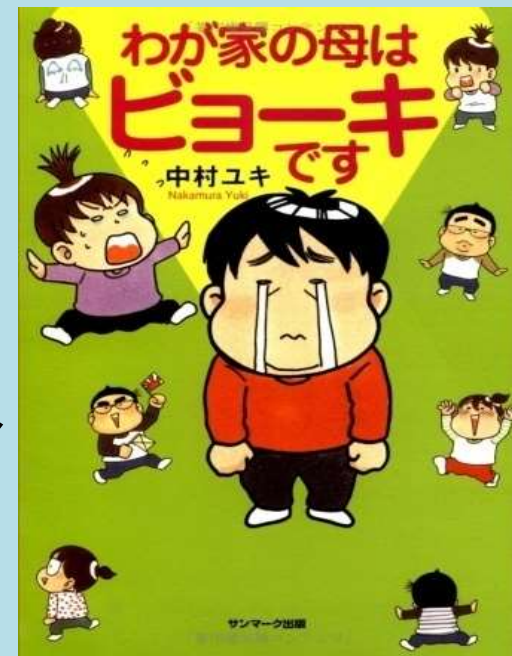
SNSで共有する



 [ディベックス・ジャパン](#)
公式facebookページ

ナラティブ教材とは

患者の病いの体験を患者や家族などが自ら自分のことばで語った物語りが表現された作品であり、学習者にとってその体験の理解を促進したり、助けになる目的で看護教育などに利用されうる形に教材化されたもの
(小平・伊藤, 2009)



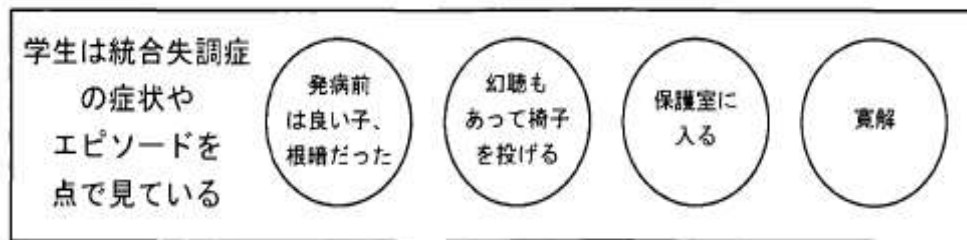
ナラティブ教材による回復(リカバリー)の学び

日本精神保健看護学会誌 Vol. 22, No. 2, pp. 68~74, 2013

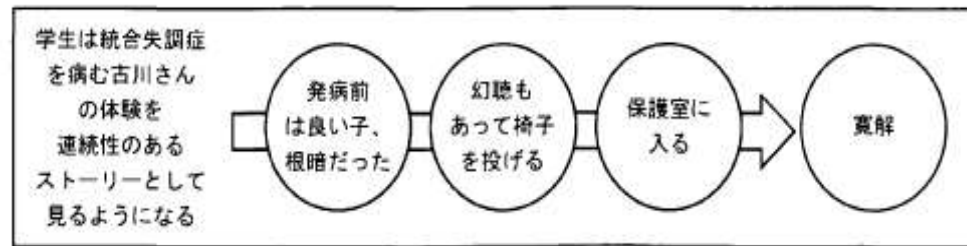
[資料]

ナラティブ教材を用いた精神看護学授業での統合失調症のイメージの変化

—テキストマイニングによる特徴語と評価語の分析—



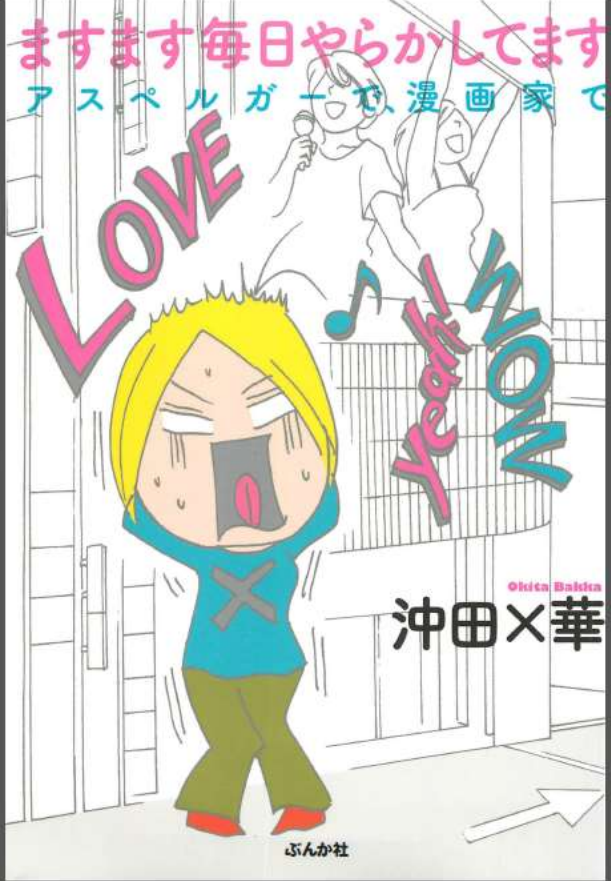
ナラティブ教材の活用



古川, 2001の病いの体験に対する見方の変化の例

図2 学生はナラティブ教材をどのように経験するのか？

- 小平・いとう(2013)はナラティブ教材から「当事者視点で統合失調症を病む体験がどのようなものであるか、そして回復していく姿をも学ぶ」とした。
- 闘病記などから回復の語りをナラティブ教材として教育的活用することは、学生が当事者の多様な回復した姿のイメージを持ちやすくさせる意義があると考え



ますます毎日
やらかしてます。

アスペルガーで、漫画家で
2014年7月1日初版第1刷発行

著者 沖田×華 おきたばっか
 発行人 角谷 治
 発行所 株式会社ぶんか社

SP対談

「ポジティブに
いこう!」

沖田×華

いとうたけひこ



沖田 さっそくですが、自分の漫画が、大学の授業で教材として使われているというのが信じられません……。

いとう 聖隷クリストファー大学の小平朋江さんと共同研究でやっていますので、僕らは「ナラティブ教材」といっているんですけど、これは「語りの教材」という意味で、病いや障害の体験を当事者や家族などが自らのことばで語った作品を、その体験の理解を促進する目的で学習教材化するというものです。手記・漫画映像・ウェブサイトなどいろいろな形があります。体験談やコミックエッセイを読むこと、その人の症状やエピソードをひとつひとつの「点」で見るとはなく、連続性のあるストーリーとして、症状や本人の苦勞や生き方の理解を深めていけるようになります。

沖田 確かに、私のエピソードは日常的なものが多いかもしれな

いとう 沖田さんは「家族やご友人の」他人の失敗や恥も

いとう 聖隷クリストファー大学の小平朋江さんと共同研究でやっていることで、僕らは「ナラティブ教材」といっているのですけど、これは「語りの教材」という意味で、病いや障害の体験を当事者や家族などが自らのことばで語った作品を、その体験の理解を促進する目的で学習教材化するというものです。手記・漫画・映像・ウェブサイトなどいろいろな形があります。体験談やコミックエッセイを読むことで、その人の症状やエピソードをひとつひとつの「点」で見るとはなく、連続性のあるストーリーとして、症状や本人の苦勞や生き方の理解を深めていけるようになるんです。

【問題】

- 厚生労働省(2016)の認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)では、学校の様々な段階で認知症についての理解を推進することを要請している。
- 人間の心理・生涯発達理解のために認知症は重要
- 医療系の教育では病いの語りが教材として取り入れられてきている。
- 心理学でもナラティブ・アプローチが注目されている。
- ナラティブ教材(小平・いとう, 2009)として病いの語りディペックスジャパンの教育的活用が注目されている(射場・後藤, 2017; 瀬戸山・青木, 2017)。

【目的】

- ディペックスの認知症夫婦のビデオクリップを心理学概論の授業でナラティブ教材として用いることにより、
- 学生の認知症の人に対する態度の変容が行われるかどうかを確認する。

ナラティブ教材としての闘病記

—多様なメディアにおける精神障害者の語りの教育的活用—

Autobiographical illness narrative documents
as narrative educational materials

Educational applications of narratives by people with mental disorders
in various media

小平朋江 (聖隷クリストファー大学) tomoe-k@seirei.ac.jp

Tomoe Kodaira (Seirei Christopher University)

伊藤武彦 (和光大学) take@wako.ac.jp

Takehiko Ito (Wako University)

日本精神保健看護学会誌 Vol. 22, No. 2, pp. 68-74, 2013

〔資 料〕

ナラティブ教材を用いた精神看護学授業での統合失調症の
イメージの変化

—テキストマイニングによる特徴語と評価語の分析—

Students' Change of Images toward Schizophrenia after the Mental Health
Nursing Class using Narrative Educational Materials

—A Comparison by Textmining—

小 平 朋 江¹⁾

Tomoe Kodaira

いとうたけひこ²⁾

Takehiko Ito

講義におけるプログラムの概要(アクティブラーニング)

- 本特別講義は2017年12月午前の90分間に私立W大学(東京都)において4人のディペックスのスタッフとともに行われた。
- 5分 プレテスト
- 10分 ディペックスの紹介と語り手ご夫婦のプロフィール紹介
- 10分 認知症本人の映像視聴
- 5分 感想の記述
- 20分 家族(妻)の映像視聴
- 5分 感想の記述
- 10分 隣の人と感想の共有(ペアによるディスカッション)
- 20分 何人かの人に、クラス全体に感想を発表とそれに対するスタッフのコメント(対話の時間)
- 5分 ポストテスト

ビデオの内容 (教育用に編集されている)

若年性認知症を患う本人の語り(10分)と妻の語り(20分)



診断時: 57歳、妻47歳

インタビュー時: 61歳、妻51歳(2010年7月)

2人暮らし。2006年に若年性アルツハイマー型認知症と診断される。診断6カ月後、36年勤めた市役所を退職。診断3年半後、有料老人ホームで介護の手伝いをはじめた。利用者の喜ぶ顔が励み。これからも何らかの形で人の役に立ちたいと思っている。

介護者である妻は自宅介護をする傍ら、週の半分は家族の会の電話相談や講演活動を行う。夫が介護の手伝いで、利用者に必要とされていることを喜び、やりがいを感じていることを嬉しく思っている。現在、介護に関する公的サービスは利用していない。

＜本人の語りの内容＞

- 異変のはじまり
- 診断時の気持ち
- 病いへの取り組み
- 妻との関係性
- 周囲の人との付き合い方

＜妻の語りの内容＞

- 異変に気付く
- 認知症と診断されるまで
- 診断されたときの気持ち
- 生活の変化
- 夫に教えられたこと
- 病気になって得られたこと

【方法】

- ナラティブ教材の視聴と授業の事前・事後に「認知症の人に対する態度尺度」(金・黒田, 2011)を実施した。
- 授業参加者のうち研究に同意した69人の質問氏の回答より下位尺度「寛容」「拒否」「距離感」「親近感」の得点の平均をt検定により比較した。
- 倫理的配慮: 日本心理学会の基準に従い、倫理的配慮をおこなった。成績とは関係なく任意参加であることを説明して同意を得た。

【結果：量的分析】図1のように、4つの下位尺度全てにポジティブな変化が見られ、統計的に有意差が見られた($p < .001$)

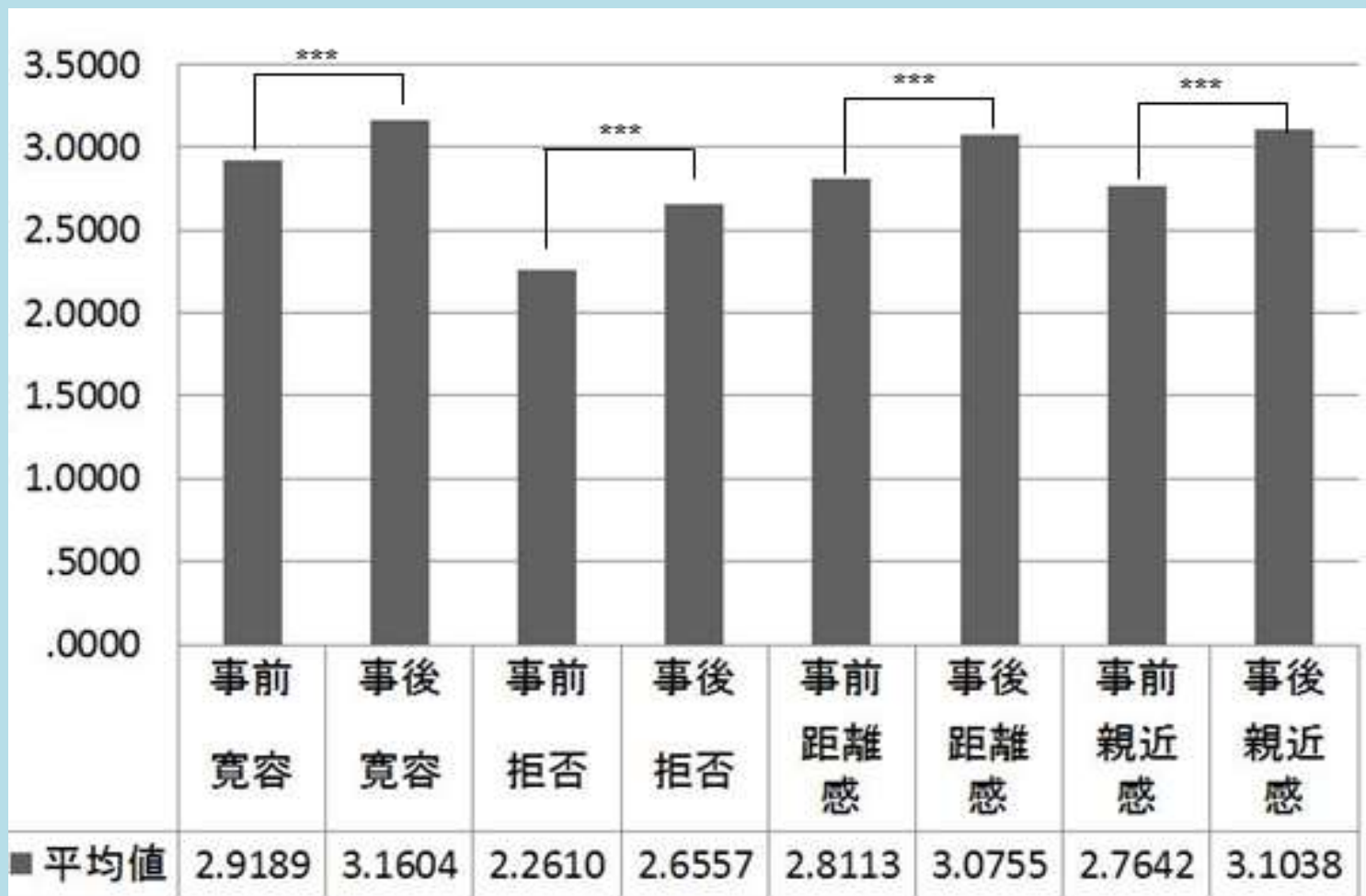


図1 認知症の人に対する態度尺度の4つの下位尺度の平均点の事前事後の変化

【結果：質的分析】 瀬戸山・森田・射場 (2017)によるナラティブ教材の学習効果の7分類

- 1 個々の当事者の苦悩に対する理解の深まり
- 2 疾患や障害に対する理解の深まり
- 3 当事者に対するイメージ・価値観の変化
- 4 当事者に対する共感や感情的な反応
- 5 当事者から見た、当事者と周囲との関係性に対する理解
- 6 **市民としての**姿勢や、医療、看護、社会の在り方
- 7 自分自身への省察

※赤字は筆者改変

瀬戸山陽子 森田夏実 射場典子 2017 医療系学生が当事者のナラティブに触れることにより得られる学び—国内における文献レビュー— 日本看護学教育学会誌, 27(1), 1-10.

ポジティブ心理学のPERMA幸福理論



- P: Positive emotion 肯定的感情
 - E: Engagement 熱中・フロー (チクセントミハイ)
 - R: Relationships 親密な関係
 - M: Meaning 意味
 - A: Accomplishments 達成感、目標
- Martin.E.P.Seligman 2011 *Flourish: A Visionary New Understanding of Happiness and Well-being*. New York: Free Press. マーティン・セリグマン 宇野カオリ 2014 ポジティブ心理学の挑戦: “幸福”から“持続的幸福”へ ディスカヴァー・トゥエンティワン
- <https://positivepsychologyprogram.com/perma-model/>
 - <https://www.habitsforwellbeing.com/perma-a-well-being-theory-by-martin-seligman/>



アクティブラーニングの一般的特徴

- (a) 学生は、授業を聴く以上の関わりをしていること
- (b) 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きが置かれていること
- (c) 学生は高次の思考(分析、総合、評価)に関わっていること
- (d) 学生は活動(例:読む、議論する、書く)に関与していること
- (e) 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること
- (f) 認知プロセスの外化を伴うこと
- 松下(2015)、Bonwell & Eison (1991)



ディープ・アクティブラーニング

- ディープ・アクティブラーニングとは、外的活動における能動性だけでなく内的活動における能動性も重視した学習 p24(松下, 2016)
- 一方向的な知識伝達講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。P31(溝上, 2016)



ライト・アクティブラーニング

- 橋本(2017)p7
- 教員側が「深さ」を最重要視せず、まずは「気軽に取り組めること」を重視し、結果として「広い学び」につながれば...
- 重要になってくるのが受講生同志の「対話」である。
...気軽に口にできる場を提供する
「学び合い」は自然の相互刺激をうみ、
...潜在的な学修意欲や能力を自然に引き出す...その経験・感性の多様性を最大限に活用すること



【考察】

- 90分一回の授業であっても、認知症の人に対する肯定的な態度変容が見られた。
- 瀬戸山・森田・射場(2017)の7カテゴリーに基づいて学習効果を考察し、ディペックスの教育的活用は、医療系学生だけでなく、一般学生にも有効であることが明らかになった。
- アクティブラーニング(橋本, 2017)の教材としてディペックス・ジャパンのナラティブ教材は有用である。
- ※本研究はJSPS科研費15K11526の助成を受けた。
- 本報告は、別府宏圀・秋元るみ子との共同研究の一部である。

- 【文献】
- 射場 典子, 後藤 恵子 患者の語りの教育的活用 ファルマシア 53(2), 131-133, 2017
- 健康と病いの語りディペックス・ジャパン (2017) 患者の声を届けたい:「健康と病いの語りディペックス・ジャパン」10年の歩み 健康と病いの語りディペックス・ジャパン(パンフレット)
- 金 高●閤, 黒田 研二 2011認知症の人に対する態度に関連する要因: 認知症に関する態度尺度と知識尺度の作成 社会医学研究 28(1), 43-55.
- 瀬戸山陽子, 青木昭子: 低学年の医学生, 看護学生授業における患者インタビュー動画教材の有用性に関する質的分析, 医学教育, 48(4), 243-247, 2017
- 瀬戸山陽子, 森田夏実, 射場典子: 医療系学生が当事者のナラティブに触れることにより得られる学び: 国内における文献レビュー, 日本看護学教育学会誌, 27(1), 1-10, 2017